

クリスチャンとしての愛の実践

二週間私が韓国へ行っている間、ミサがなかったことをあやまりたいです。

司祭の立場では気になる二週間の日曜日でした。実際旅に行く前にいろいろな思いがありました。他の司祭に頼んで皆様がミサに与れるのが正しいのか…。しかし、私の頭の中に望みがあって、最終的に他の司祭に頼むより司祭がいない条件で日曜日を過ごしてもらった方が良いのではと、み言葉の祭儀にしました。その理由はミサって本当に大事だということを心と体で実感して欲しかったからです。皆様には他の思いがあったかもしれないのですが、先週の日曜日、祭儀に来られなかった人、手を上げて頂けますか？ 先々週の日曜日に来られなかった人は？ ミサの方がいいでしょう？ そうではないですか？ 言葉が解らない外国人の立場でもミサの方がいいのではないのでしょうか。そういう意味で良い体験になるのではないかと考えてわざわざこのようにしました。

日本の教会の現実として日曜日でもミサが捧げられない教会が結構あります。しかし皆様は各自の言葉でいろいろな国の人々がミサを捧げることができる。このことについて神様に感謝すべきではないでしょうか。このような思いが強かったのです。ミサの大事さ、なぜ私達がミサを通らなければならないのか、信仰の中でご聖体を通して現されるイエス様が中心にならなければならないのか。ご聖体を頂くためには必ずミサが必要であることを私達はなぜ悟らないのか。それを解って頂きたかったのです。皆様本当に大事にしましょう、このミサ。一週間の中で何を優先させるかを決める前に、無意識に「私にとってはミサが一番大事」という思いが皆様の胸に強く刻まれたら、私達の祈りの中で“召し出し” “召命” という若者のためにも祈るでしょう。この日本の教会の未来を見ながら若者たちの中にたくさんの召し出しがあるように、「神様日本の教会を守って下さい」という祈りが自然に出るでしょう。皆様お願いします。カトリック教会は司祭なしには何もできません。それは2000年前からのことです。そういう意味で私達はもっと強く願う心でイエス様に祈りましょう。必ず下さいます。「働き手が足りないのです。あなたが守って下さらなかつたら何もできないのです」という祈りが必要ではないかと思えます。

さて、世界の人口はどの位だと思えますか？ 2007年の統計によりますと65億人だそうです。そのうちキリストを救い主と信じている人の人口はどの位でしょうか。キリスト教は大きく四つに分けられます。

1. カトリック
2. 新教(プロテスタントとよく言いますが、プロテストとは抗議するという意味ですから、あまり使わない方がいいです。教会一致のためにも新教と言う方がお互いにいいのではないかと思えます)
3. ギリシャ正教・ロシア正教等の正教会
4. イギリスのカトリックの聖公会

これらの人達をクリスチャンと言いますが世界で25億人位います。世界の人口の3分の1を超えます。二番目に大きい宗教はイスラム教ですね。イスラム教は何を信じていますか？ “神様”ですね。キリスト教はイエス・キリストを通して神様を信じています。神様がいないと言う人は結局5%たらずです。ですから世界の人口の4分の3が形は違うかもしれませんが、神様を信じて自分が救われたいと願っているのです。そして救われるために神様が教えた掟を守りたい、そういう希望を持って各自が信仰の生活をしているわけです。

4分の3の人が宗教を持っているとしましょう。ほとんどの人が宗教心を持っているわけですね。しかし、この世の流れを見ますと、食糧がたりなくて小麦やお米、水など一番基本的な物がなく

て困っている死にそんな国がたくさんあります。逆に豊かな環境の中では食べ物には困らないでお腹は満たされるかもしれないが、昔持っていた情けや情というものがほとんど見えなくなりました。利己主義的になってしまった。どういうわけでしょう？カトリック信者は15～16億人と今年の統計では言われています。その内休んでいる人のことを考えても、少なくとも5億人以上の人が毎週御聖体を頂いている。どういうことでしょうか？この頃テレビ、特にNHKでドキュメンタリーをたくさんやっています。そこに映し出されているのは飢えて死んでいく子供たち。自ら反省しなくてはいけない。私達それぞれの立場でどうすれば良いか。どうすれば神様に喜んでいただける世界に戻れるのか。

今日の福音でこのように言われていますね。「あなたがたは、私を愛しているならば、私の掟を守る」掟とは、まず第一に「神様を愛すること」。二番目は「隣人を自分のように愛すること」。最後に「私の掟を受け入れ、それを守る人は、私を愛する者である。私を愛する人は、私の父に愛される。私もその人を愛して、その人に私自身を現す」と言われています。結局、掟を实践、行うことですね。

カトリックでは愛の掟の实践に二つの形があります。たぶん、皆様も二つの形のうちのどちらかの生き方をしているらっしゃると思います。

ひとつは消極的な愛の实践。ふたつめは積極的な愛の实践。消極的な愛の实践とは罪を犯さないようにがんばること。積極的な愛の实践とは、自ら探しながら自分の愛を表現することです。私達の目にどちらがきれいに見えるのでしょうか？

そうです。イエス様が叫んだ福音は消極的な愛ではありません。怖がりで臆病で罪を犯したら地獄に落ちる、そういう恐れによって、逃げ場として罪を犯さないようにする。それは意味がありません。イエス様が叫んだのは積極的に探みなさいということです。そうしたらあなたの中に燃やされる聖霊の働きの体験をすることができると、何回も何回もおっしゃっているのです。皆様、たぶんいろいろな形で愛徳とか、施し、良いことをなさっていると思います。しかし、この世の中、地球村と言われる位狭くなっているのに、前より激しく格差が広がっています。食事のときまず感謝します。そして今困っている子供たちのために、私がどうすれば良いか祈りから始めましょう。そういう小さい動きから私に与えられた使命が現われると思います。

私達は運命共同体です。一人が死んだら皆死にます。これは神様が約束しました。私達は利己主義的な宗教集団ではありません。信者でも信者でなくても、全然利害の関係がなくても愛の实践をなんとか見せなければならぬと思います。それがイエス様を頂く一番大きな目的ではないでしょうか。お願いします。私も反省します。一緒に良い方向に向かって歩みましょう。

最後に、私は旅に行って帰って来たんですよ。ですからお土産を持ってきました。率直に申しますと、私の母が皆さまに差し上げたいと用意した口ザリオです。ひとつずつ差し上げますので並んで下さい。

ありがとうございました。